

極

秘

決定

40 部ノ内第 26 號

對佛印泰施策要綱

昭和十六年一月三十日
大本營政府連絡會議決定

上奏スルコトニ意見一致ス

總長ハ提案理由ハ軍令部總長外交ハ經理、軍事ハ參謀總長ヨリ上
奏スルヲ適當ナリト述フ

ハ以上ノ經緯ニ依リ別冊對佛印、泰施策要綱ヲ決定ス

備考

上奏シテ御裁可ヲ仰クヘキヤ否ヤハ未決ノ假會議ハ終了セリ

通學

六安

淺井中流此來要隘

外編 內編 附錄

第一目的

大東亞共榮圈建設、途上ニ於テ帝

國ノ當面スル佛印、泰ニ對スル施策ノ

目的ハ帝國ノ自存自衛ノ為佛印、泰

ニ對シ軍事、政治、經濟ニ互リ緊密ニ

不離ノ結合ヲ設定スルニ在リ

第二方針

一帝國ハ速ニ佛印及泰ニ對スル施策

ヲ強化シ目的ノ貫徹ヲ期ス

之ヲ爲所要ノ威壓ヲ加ヘ已ムヲ得サ

第一目的

一佛印ニ對シ武カヲ行使ス

二本施策ハ英、米ノ策謀ヲ排シ放逐

ニ之ヲ強行シテ成ルヘク速ニ目的ヲ概

成ス

第三要領

一帝國ハ失地問題處理ヲ目標トスル佛

印泰間紛争ノ居中謝停ヲ強行シ之
ヲ契機トシテ帝國ノ佛印、泰兩地域
ニ於ケル指導的地位ヲ確立スル如ク
施策ス
ニ泰ニ對シテハ成ルル速ニ日泰協定ヲ締
結シ佛國ニ對シテハ經濟交渉ノ速決ヲ

圖ルト共ニ機ヲ見テ日佛印間諸關
係ヲ増進スヘキ般の協力能存ニ
間紛争防止ノ保障又日佛印間通商
交通擁護ヲ目的トスル軍事的協力は
關スル協定ヲ締結ス
右協定ニ於テ充足セラルヘキ帝國ノ政

治的及軍事的要求左ノ如シ
一 佛國ヲシテ佛印ニ關シ第三國ト一切ノ
形ニ於ケル政治的軍事的協力ヲ爲サ
サルコトヲ約セシム

二 佛印特定地域ニ於ケル航空基地及
港灣施設ヲ設定又ハ使用並之ヲ維

五 持用爲所要機關ヲ設置

六 帝國軍隊ノ居住、行動ニ關スル特別

ナル便宜供與

三 政戰兩略ノ妙用ヲ期スル爲速ニ所要

自作戰準備ヲ整フルト共ニ武力行使

ノ時機ハ豫メ機ヲ失セズ之ヲ定ム

四 交渉ノ經過ニ應シ適時威壓ヲ増大シ

目的ノ達成ニ勉ム

右威壓行動ニ對シ佛印カ武力ヲ以テ抵

抗セハ當該部隊ハ武力ヲ行使スルモ之

ヲ強行ス

五 佛國カ紛争解決ニ應セサル場合ニハ

佛印ニ對シ武力行使ヲ豫定シ其ノ發

動ハ別ニ決定セラルルモノトス

六 協定締結ヲ拒否スル場合ニ於ケル武力

行使ハ豫メ之ヲ準備ヲ爲スモ其ノ發動

ハ當時ノ情勢ニ依リ決定ス

右武力行使ハ佛國ヲシテ我要求ニ聽

從セシムルヲ限度トシ、武力行使後ニ於テモ
極力佛印ノ治安維持、政治經濟等ハ
佛印當局ヲシテ當ラシムルニ勉ム

六、秦ニシテ我要求ヲ拒否スル場合ニ於テハ
日、秦協定ノ内容ヲ變更シ又ハ威壓ヲ
加フル等極力我要求ヲ容認セシムルニ

勉メ如何ナル場合ニ於テモ秦ヲシテ英、米

側ニ赴カシメサル如ク施策ス

七、本施策ニ應スル如ク帝國ノ輿論ヲ統一

スルト共ニ徒ニ英、米ヲ對象トスル南方問

題ヲ激化セシメ無用ノ摩擦ヲ生セサルニ

留意ス

家書入一紙及一紙
雖も若く少くも
奈れども其の
十本読菜丸
備三枝
或は四折

記 録

政治的軍事の事項ニ關スル外交上ノ措置ニ付テハ四國ノ情勢ニ鑑ミ
其時期及方法ヲ決定シ、次第ニヨリテハ佛印ニ對スル前記要求ノ内
容ニ付テモ變更スルコトアルヘシ

以上松岡外相ノ懇談會席上ノ希望トス

對佛印泰施策要綱ニ關スル覺

第二ノ方針ノニ關シ本施策ノ目的達成ハ三、四月頃ヲ目標トシ外
交上最善ヲ蓋スヘシ